

(日刊八月二十八日発行
・四二四八号の続き)

現在もなお長期不況が続く中日経連は、今年五月、「新時代の『日本の経営』」と題するプロジェクト報告を発表した。この報告は、昨年夏の日経連会長・永野の「二〇〇〇万失業」発言に見られる労働者への首切り攻撃の具体的方針として出されたものである。

内容としては、全労働者の不安定雇用化(雇用破壊)、年功制賃金の徹底的な解体(賃金破壊)と組合破壊という、これまでの戦後的労使関係を根底から一掃するための資本の側の方針として出されているのである。

「すべてが労働者の問題」

まず冒頭で、「これまでの雇用のあり方」ではやっていけないとして、次の「日本の経営の環境変化」を挙げている。

- ① 経済成長の鈍化
- ② ホワイトカラー部門、第三次産業など低成長部門の過剰人員
- ③ 「企業のリストラ、高コスト体質改善」による過剰人員
- ④ 「産業構造の転換」による過剰人員
- ⑤ 「市場開放、公的規制の緩和・撤廃」による余剰人員
- ⑥ 「円高と空洞化」による余剰

図表一 グループ別にみた処遇の主な内容

雇用形態	対象	賃金	賞与	退職金・年金	昇進・昇格	福祉施策
10% 長期蓄積能力活用型グループ	管理職・総合職・技能部門の基幹職	月給制か年俸制 職能給昇給制度	定率+業績スライド	ポイント制	役職昇進 職能資格昇格	生涯総合 施策
90% 高度専門能力活用型グループ	専門部門(企画、営業、研究開発等)	年俸制 業績給昇給なし	成果配分	なし	業績評価	生活援護 施策
雇用柔軟型グループ	一般職 技能部門 販売部門	時間給制 職務給昇給なし	定率	なし	上位職務への転換	生活援護 施策

人、というように、全てが労働者の過剰・余剰の問題だとしているのである。

そして、この労働者の「雇用のシステム」として、全労働者の不安定雇用化を前提に「三つのグループ」に分けている(表一参照)。

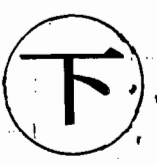
表一の上段「長期蓄積能力活用型」は管理職などを中心に全体の10%程度とし、雇用の形態を見ると「期間の定めない雇用契約」(終身雇用)となっており、これ以外の「高度専門能力活用型」(技術者)で二・三年、「雇用柔軟型」(一般労働者)では一年以内という不安定な雇用形態(いつでも資本の好きなように首を切ると言うこと)にしようというのである。採用についても、「必要な時点で必要な能力を確保し充足」している。

「右肩上がりからラップパ型へ」

「賃金システム」についても、これまでの年功制賃金を解体しようというものである。表一をみても、定期昇給、ベースアップ方式を廃止し、年俸か時間給にし、職能制や業績制に転換しようとしている。退職金については「なし」というとんでもない内容となっている。

この職能・業績制は、これまでの「右肩上がり」(年功制賃金)から「ラップパ型」(上にも下にも向くということ)にしよ

- ① この職能・年俸制の目的は、てつとつり早く、人件費を大幅に削減できること
- ② 労働組合を賃金決定の場から



排除すること

③ 労働者を徹底した弱肉強食の過程にたたくこと、つまり業績争いに負けた労働者は辞めるしかないということである。

労働者を全く無視した制度と言わなければならない。

「連合・JR総連の反動性」

こうした資本の動きに対して連合は、「時代のすう勢でしようがない」「雇用の創出を行う」として、全面的に容認しているのである。

また、JR総連革マル松崎は、「ワークシェアリング」を要求している。これは、賃金を半分にして雇用を守ろうというものである。しかし、今の日本で賃金を半分に生活できるだろうか。とんでもないことである。革マルだけが生き延びるためには他の労働者のことなど全く考えていないという証拠だ。

「労働者として反撃に起とう」

では、なぜこうまでして労働者への攻撃を強めるのか。それは

は、一方では資本の利潤を上げるために労働者を攻撃し、他方ではアメリカとの中国をはじめとしたアジア市場の争奪戦に勝たなければならないということから労働者を犠牲にするために出されてきたものである。つまり、「大失業と戦争」とは同じものなのである。

しかし、この攻撃も、労働者の反撃が一切ないことを条件にしているのである。

しかし、清算事業団闘争をはじめとした資本に対する反撃が続く限りこの「プロジェクト報告」は成功しないということになるのである。

さらに、この「プロジェクト報告」では決定的なことが抜けている。それは、肝心の「こうすれば長期不況や崩壊した金融システムの立て直しは解決できない」という方針が一切書かれていないということである。

資本の側も余裕があるわけではない。資本主義も、ついに労働者に「メシ」を食わせることができない時代に入ったのである。

「大失業と戦争の時代」に抗して闘う、労働運動の新たな潮流をめざして闘いぬくことこそ勝利をつかむ近道なのである。

御宿町議選統一行動に起とう!

第一次統一行動 九月 六日(土) 10:00
第二次統一行動 九月十五日(土) 18:00

集合時間 各とも十時又は十三時を基準に何時でも可
集合場所 中村俊六郎氏自宅

参事 勝浦いすみ支部、御宿町住者/出身者
参事 中村俊六郎氏自宅

参事 紹介者名簿提出者

